

四
マ
ラ
イ
方
面
部
隊

南方軍衛生教育隊		年 月 日	略 歴
昭和一七 九 五	軍令陸甲第七十一号により十月十日南方軍衛生教育部編成下令 (編成担任南方第一陸軍病院)		
一〇三一	編成完結(シンガポール) 爾後、シンガポールにおいて衛生部幹部候補生及び衛生部下士官候補者の教育を担当 この間短期現役軍医の教育を担当 (三ヶ月)		
二〇 八一五	停戦(シンガポール) 南方軍衛生教育隊を南マライ保健所に改め、幹部候補生、短期現役軍医を原所属に復帰 下士官、候補者を教育部に編入し、主として、各病院からの退院患者を集め、患者を練 成し健康回復した者から逐次、輸送梯団に編入し内地に還送す		
二一 六 四	保健所を閉鎖		
二一 六一四	残務整理員、シンガポール出発		
六二六	宇島上陸		
六二八	召集解除		

第十一特設鉄道運輸隊		
年 月 日	略	歴
昭和一六 九一三	軍令陸甲第五十九号に依り第十一特設鉄道運輸隊編成下令	
九一八	編成完結	
九二六	屯営出發	
一九二八	大阪港出帆	
一一一八	仏領印度支那海防港上陸	
一三一二	仏印、泰國境通過	
一二一四	盤谷に進駐	
一七	爾後泰國鐵道の利用	
五一〇	ビルマ転進のため昭南集結	
五一二	昭南港出帆	
五二〇	蘭貢港上陸	
至自 二〇〇 五四二 二〇五	爾後同地にありて緬甸鐵道の運営開拓整備に従事 緬甸より馬來に転進を開始しピンナマ及トングウより後退途中又ベグウよりモウルメン 移動中何れも敵の空陸及緬甸反乱軍等の攻撃のため高等文官二、判任文官四、雇員五戦死	

二〇	六	行方不明三八、負傷入院せるもの三名を出せり、其他悪性マラリアの爲め死亡せるもの五、入院せるもの六〇名あり
	馬来到着	
	爾後馬來鐵道の運営に従事	
	八一五 停戦	
	九二 終戦	
二二	五一 レンバン島出發	
	五一三 名古屋上陸	
	五一三 復員	
	歴代部隊長名	
	1. 大佐 森 肇 2. 大佐 岡上 真之 3. 大佐 河野 選	

独立混成隊三十六旅団、工兵隊	
年 月 日	略 歴
昭和一九	軍令により独立混成隊三十六旅団工兵隊編成下令
三 一	編成完結（綏陽）
五 二〇	南方転用のため綏陽出發
二 一	鮮満国境（図們）通過
二 五	釜山港出發
二 五	門司着
二 九	門司發
六 二九	昭南港上陸
九 一二	昭南出發
一 一 五	カーニコバル島上陸
二 〇 八 一五	停戦
一 一 八	カーニコバル島出發
一 一 六	レンバン島上陸
二 二 六	レンバン島出發（一二三名）

六
九
田辺上陸、復員

(注) 第二梯団二一、四、二四 レンバン島発

(二名) 二一、五、一〇、名古屋上陸召解

第七梯団

(二名) 二一、五、三 レンバン島発

二一、五、一八 名古屋上陸召解

独立歩兵隊二六五大隊			略	歴
年	月	日		
昭和一九	二	二〇	軍令により独立歩兵隊二六五大隊編成下令	
一九	二	二五	編成完結（新京）	
	五	一九	南方派遣のため新京出発	
	二	二〇	満鮮国境通過	
	二	二〇	釜山着	
	二	二二	釜山出発	
	六	二五	シンガポール上陸	
	七	一六	シンガポール出発	
	七	二二	クアラルムプール着	
	一〇	一九	クアラルムプール発	
	二	二一	マライ泰国境通過	
	二	二四	泰国チュンボーン着	
	二	二五	移住のためチュンボーン出発	
	八	八	タンジョンマリーム着	

二〇	八	一五	停戦
二〇	九	二	終戦
一一	一五	集結のためタンジョンマリーム出発	
一八	チ	ン	ボン着
二一	三	一六	マライ移駐のためチンボン出発
二二	三	マ	ライクアライライ付近に於て労務従事
二二	五	七	内地帰還のためプライ出発
五	八	シン	ガボール着
一〇	シン	ガ	ボール発
二四	字	品	上陸
二五	復	員	

42

独立混成第三十七旅団砲兵隊	
年 月 日	略 歴
昭和 一八 一一 一六	軍令陸甲第一〇六号により独立混成第三十七旅団砲兵隊編成下令
一九 三 一	編成完結（東滿綏省密山に於て）
五 二 二	移駐のため東滿綏省密山出發
五 二 三	鮮滿国境（図們）通過
五 二 六	釜山着
六 九	釜山港出帆
	同日博多上陸門司に至る
六 一 一	門司港出帆
二 二 二	マニラ港到着
七 六	マニラ港出帆
七 一 七	昭南港到着
七 一 八	昭南上陸
八 三 一	マライポートセツテンハム港出帆
九 一	スマトラテロンブン港上陸

至自		
一〇	一三	スマトラクタラジャ港出帆
一〇	一五	ニコバル諸島ナンコリー到着
一〇	一五	ナンコリー港東湾口附近海上戦斗参加
一〇	一五	ニコバル諸島カモルタ島上陸
一九	一九	第一次対空海戦斗参加
二〇	二〇	第二次対空海戦斗参加
二〇	二四	レバン島に集結のためカモルタ島出発
二一	二七	北部レンバン島上陸
二一	二八	帰還のため北部レンバン島出帆
六	九	田辺港上陸
六	九	復員完結

独立混成第三十七旅団通信隊		
年 月 日	略	歴
昭和一一一六	軍令陸甲第一〇六号に依り独立混成第三十七旅団通信隊編成下令	
一九三一	編成完結（黒河省孫吳）	
五二二	孫吳出發	
五二五	鮮満国境通過	
五二七	釜山着	
六九	釜山港出帆	
六九	博多港上陸	
	同日門司着	
六一一	門司出發	
六二三	比律浜マニラ着	
八七	マニラ港出帆	
八二〇	昭南島上陸	
一〇九	昭南島出發	
一〇一〇	セランゴール州クアランブール着	

一〇	一七	キャランブール出発
一〇	二五	同日ポートセツテン公着
一〇	二八	ポートセツテン公出発
		スマトラ島テロクニホン上陸
		同日タンジョンパレー着
一〇	三〇	タンジョンパレー出発
		同日ベラワン着
一一	一一	ベラワン出発
一一	一三	クタラジャ着
一一	一六	クタラジャ出発
		同日オレレ港着
一一	一七	オレレ港出帆
一一	二〇	ニコバル諸島カモールタ島上陸
二〇	八一五	停戦
二〇	一二二三	ニコバル諸島カモールタ島出帆
一一	二二八	リオ諸島レンバン島上陸
二一	五二九	内地帰還のためレンバン島出帆
六	九	田辺上陸
六	九	復員完結

戦車第十五連隊		
年 月 日	略	歴
昭和 一五 一一 二三	軍令に依り第一師団戦車隊臨時編成下令	
一一 一四	黒河省孫吳に於て編成完結	
一六 七 二八	臨時編成下令同月三十一日編成完結	
一七 九 一	軍令陸甲第四十二号により戦車第十五連隊と改称す	
一八 九 一九	四四作命甲第一四二号により第四軍隷下を脱し第二十五軍隷下に入る	
九 二〇	孫吳出發	
九 二四	関東州界通過同日大連到着	
九 二六	大連港出帆	
三〇	門司上陸	
一〇 一二	門司出帆	
一一 六	仏領印度支那西貢上陸	
一一 一五	西貢港出帆	
一一 二七	ニコバル諸島カール、ニコバル島マラツカ上陸同日より同島の守備に任ず	
一九 一 三〇	富作命甲第五十三号に依り第二十五軍隷下を脱し第二十九軍の隷下に入る	

		昭和二〇	八一五	停戦
		二一	一一七	レンバン島移駐のためカールニコバル島出帆
			一二七	レンバン島上陸
	五	二九		復員のためレンバン島出帆
	六	九		和歌山県田辺港上陸
				同日復員完結

第四十六師団兵器勤務隊	
年 月 日	略 歴
昭和一八一〇二〇	軍令陸甲第九十五号に依り第四十六師団兵器勤務隊臨時動員下令
一一一〇	動員完結(熊本)
一九 一二三	南方派遣のため門司港出帆
二二二	ジャワ島タンジョンプリーオーク港上陸
二二三	タンジョンプリーオーク出発
二二五	スラバヤ着
三二五	スラバヤ港出帆
三三一	スンバワ島ビマ港上陸
二〇 二一九	転進のためスンバワ島ビマ港出帆
六七	昭南上陸
六三〇	昭南港出帆
六三〇	ジョホールバル着
八一五	停戦

九	二	シヨホールパール出発	
一〇	二八	昭南着	
一〇	二八	昭南港出帆	
一〇	二八	馬來レンバン島上陸	
二二	五	二四	内地帰還のためレンバン島出帆
六	三	大竹港上陸	
六	四	復員完結	

第四十六師団経理勤務隊		
年 月 日	略	歴
昭和一八 一〇二〇	軍令陸甲第九十五号に依り第四十六師団経理部臨時編成下令	
一一一〇	編成完結（熊本）	
一九 一一二	南方派遣のため門司港出帆	
二二四	ジャワ島スラバヤ港入港	
三 四	スラバヤ港出帆	
三 七	スンバ島ワインカツプ港上陸	
	爾後同島附近の防衛	
二〇 三一三	転進のためスンバ島ワイケロ出発	
四一八	南馬來ジョホールバル上陸	
	爾後同地附近の警備	
八一五	停戦	
九 九	移駐のためジョホールバル出発	
九 九	南馬來レンガム着	
一〇二六	レンガム出発	

二二	一〇二九	馬来レンバン島上陸
五一二	五二四	内地帰還のためレンバン島出帆
五二六		復古屋港上陸
		復員完結